

不確かさカテゴリー分類結果一覧表（定量試験A）

JNLA認定分野	試験方法	JISの番号	JISの名称	試験方法の項目番号	試験の概要	カテゴリー分類結果	カテゴリー分類の理由・解析
土木・建築分野	材料の断熱試験	A1412-1	熱絶縁材の熱抵抗及び熱伝導率の測定方法 - 第1部 保護熱板法		熱的定常状態において、板状材料の試験体を通して熱流と温度差を測定して、伝熱特性（熱伝導率、熱抵抗）を算出する。	定量試験A	測定の不確かさの主要な要因として、温度、発熱量及び試験体の厚さ測定が示され、それぞれ装置、測定手順に具体的な数字を示して規定している。また、計算結果の表現形式は有効数字で規定されている。
土木・建築分野	骨材、コンクリート混和材及びセメントの化学分析試験	R5202	セメントの化学分析方法（強熱減量）		セメント1gを白金のつぼ又は磁器に入れ、975 で15分間加熱し、デシケーター中で放熱した後質量を測定する。再度同様の加熱を行い質量を測定する。恒量（前後で質量差が0.5mg）になるまで繰り返し、元の質量と質量の減量値から、強熱減量を求める。	定量試験A	試験結果に影響を与える主要な要因は規格に定められており、試験結果の表現方法についても定められている。
繊維分野	繊維混用率試験	L1030-2	繊維製品の混用率試験方法 - 第2部 繊維混用率	6.試験方法（溶解法）	混用品の組成を鑑別後、選択した溶液で一方の組成を溶解除去し、残分を秤量する。溶解した組成の割合は減量分から計算する。	定量試験A	JIS L 1030 - 2の溶解法では、試験方法によっては、精度の項が設けられ繊維材料の均質な混用品では、「この方法で得られた結果の信頼限界は、95%の信頼水準に対して、± 1%以下とする。」と明記している。従って、これらの方法を使用した場合の不確かさは、信頼率95%で± 1%といえる。 一方、JIS L 1030 - 2の溶解法で精度の規定がなく、確認の項で「測定は2回行い、その平均値を求める。ただし、6.1.10a)の算出方法によって絶対混用率の値に1.5%以上の差がある場合は、更に2回以上の試験を行いこれらの平均値を求める。」とある。もし、1.5%以上の差がある場合は、再度試験を実施するため、これらのデータは棄却される。採用した測定値は、2回の差がすべて絶対混用率の1.5%以内にある。n= 2の測定の場合、差が1.5%の分散は、値の大小に関わらずその値は、一定となるので拡張不確かさが求まる。また、3種混紡の場合、2回の溶解操作を行う。従って、分散の伝播則により合成不確かさが見積もられる。 試験結果の表現方法は、6.1.12 試験結果の報告の項に「個々の測定結果と個々の測定結果の算術平均値を小数点以下1けたまで正確に記載する。」と明記している。
繊維分野	繊維混用率試験方法	L1030-2	繊維製品の混用率試験方法 - 第2部 繊維混用率	5.試験方法（解じよ法）	繊維種類の異なる糸で組織し、編成し又は構成している繊維製品から、意匠の1単位を構成するすべての糸を含むように試料採取し、これをほぐし繊維種類別の糸に分離する。それぞれの糸の質量を求め百分率で表す。	定量試験A	5.10 確認の項で「測定は2回行い、その平均値を求める。ただし、6.1.10a)の算出方法によって絶対混用率の値に1.5%以上の差がある場合は、更に2回以上の試験を行いこれらの平均値を求める。」とある。もし、1.5%以上の差がある場合は、再度試験を実施するため、これらのデータは棄却される。採用した測定値は、2回の差がすべて絶対混用率の1.5%以内にある。n= 2の測定の場合、差が1.5%の分散は、値の大小に関わらずその値は、一定となるので拡張不確かさが求まる。試験結果の表現方法は、5.11 試験結果の報告の項に「混用率の数値は、小数点以下1けたで表す。」と明記している。

JNLA認定分野	試験方法	JISの番号	JISの名称	試験方法の項目番号	試験の概要	カテゴリ分類結果	カテゴリ分類の理由・解析
繊維分野	より数、質量、長さ測定	L1095	一般紡績糸試験方法	9.15より数	検ねん機を用いて、単繊維又は単糸が平行になるまで解ねんしより数を測定する。	定量試験 A	<p>付属書 2の付属書 2表 2及び表 3に試験片 nの計算式が示されており、要求精度によって n数が決まる。表 2によれば、その他すべての糸では、95%の信頼限界で精度 <math>\pm 5\%</math> の場合、<math>n = 0.154 \cdot 2</math> の式が挙げられている。これによって、n及び <math>\sigma</math> が決まれば、信頼水準 95%における精度 <math>\sigma</math> が導かれる。</p> <p>ここで、変動係数を規定している縫い糸 JISにおいては信頼水準 95%における不確かさを見積ることができる。</p> <p>試験結果の表現方法については、A法の場合、試験回数は 30回 (9)とし、その平均値 (小数点 1けたまで) を 4.4 b) (一定の単位長さ当たりの数値で表し、その単位を付記する。) によって表す。」と明記している。</p> <p>対象となる製品 JIS L2101、L2310、L2403、L2510、L2511、L2512、L2513</p>
繊維分野	繊維製品引張強さ試験	L1095	一般紡績糸試験方法	9.5単糸引張強さ及び伸び率	糸を引張試験機のつかみ治具に取り付け引張り、試料が切断した時の荷重 (N) 及び伸び率 (%) を測定する。	定量試験 A	<p>変動率を規定している縫い糸 JISにおいては信頼水準 95%における不確かさを見積ることがより数と同じようにできる。</p> <p>(例えば、綿縫い糸の引張強さでは、引張強さ変動率は、6.7により試験したとき、10.5%以下とする。) と規定されている。) ただし、伸び率については変動率が未定のため別途見積もる必要がある。</p> <p>試験結果の表現方法については、引張強さは切断時の荷重の平均値で表し (整数位まで) 」と明記している。</p> <p>対象となる製品 JIS L2101、L2310、L2403、L2510、L2511、L2512、L2513</p>
電気分野	絶縁試験	C9335-1	家庭用及びこれに類する電気機器の安全性	13.2運転時における漏えい電流	運転状態において、電源の片側と可触金属部との間で、付属書 Gに規定する回路を使用して漏えい電流を測定する。	定量試験 A	<p>測定の不確かさの主要な要因として、運転条件を通常使用状態のうち最も不利な条件と規定している。また、付属書 Gに規定する回路を漏えい電流測定に使用することを定めている。また、試験結果の表現形式は、判定値の表現形式により間接的に定められていると判断される。</p>